YSP / BUSINESS PLAN

YSP
日本のポイ活から、
世界の決済へ。

YSPは、ゆるぽで貯め、YuruFunでステーキングし、投票や決済に使う通貨構想です。まず日本で円連動のYSP JPYを展開し、海外の通貨別YSP、そして統合インデックスへ進みます。事業収益を価格安定・利用者への報酬・YURU COINの買い戻しへ循環させます。

$5M / YSP事業の資金調達目標

日本の事業基盤と、その後の海外展開に向けた調達計画。

¥1 / 1 YSP JPYの設計上の基準価値

円ペッグを目指す設計。発行・償還条件の整備が前提です。

12% / 基本ケースの年間報酬率

事業計画上の単利・税引前の試算。固定利回りや元本の保証ではありません。

事業計画・設計目標

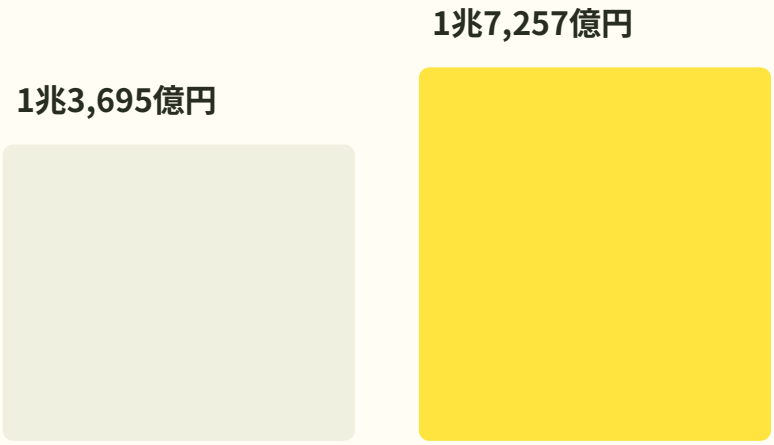
事業計画と設計方針を紹介するページです。数値は基本ケースの計画値で、購入・預入れの申込みは受け付けていません。

MARKET / 日常の消費に、成長の入口がある。

ポイントの習慣を、
使い続ける通貨の需要へ。

YSPが取り込むのは、日々の買い物で価値を貯め、次の利用へ回す行動です。ポイント獲得を入口に、投票、決済、ステーキングまでつなぎ、継続利用から事業収入を生むモデルを構築します。

国内のポイント・マイレージ年間最少発行額



58.0%

2025年のキャッシュレス決済比率

経済産業省の国内指標。決済のデジタル化が、ポイントを日常的に貯めて使う接点を広げています。

NRI、2026年4月公表。国内12業界の主要企業による民間発行額。ポイ活事業者の売上やYSPの獲得可能市場ではありません。

成果報酬広告の基盤も拡大。矢野経済研究所は国内アフィリエイト市場を2025年度4,598億円（見込）、2029年度5,883億円（予測）としています。ポイント発行額とは別定義で、合算しません。

YSP / GROWTH STRATEGY

日本から、段階を踏んで世界へ。

01 / JAPAN

YSP JPYでポイ活・決済・ステーキングの利用基盤をつくる

02 / EXPANSION

YURUの取引市場と、海外の通貨別YSPへ展開する

03 / INDEX

各通貨の基盤を束ね、YSP INDEXへつなぐ

参加の入口が身近

暗号資産取引の経験よりも、買い物・サービス利用という習慣を入口にします。

使う理由が複数ある

応援するIPへの投票、イベント、加盟店での利用を継続的な接点にします。

利用の増加が収支につながる

成果承認と入金を伴う利用を積み上げ、収益を価格安定とサービス拡大に戻します。

01 / TWO COMMUNITIES, ONE EXPERIENCE

貯める人と、
応援する人をつなぐ。

COINCOMEに代表されるポイ活の習慣と、ゆるキャラグランプリから広がるファンの熱量。異なる二つの入口を、ゆるぽの継続利用へつなぐ事業モデルです。

20万人 / COINCOME

COINCOMEのユーザー基盤

ポイ活に親しむ20万人の利用者との接点を、ゆるぽ・YSPの利用拡大につなぐ構想です。

110万人超 / 旧グランプリ

旧グランプリの投票ID登録者

過去のグランプリで投票IDを登録した人の規模です。キャラクターを応援する参加経験を、ゆるぽの新しい利用体験につなぐ事業基盤と捉えています。

人数はプロジェクト提供情報。COINCOMEの利用者規模と旧グランプリの過去の投票ID登録者数を示します。時点・重複・活動状況が異なるため合算せず、YSPの登録・継続利用は別途集計します。

接点を、毎月の利用へ育てる。

利用者の同意を得た案内、初回利用、成果承認、再利用を段階ごとに管理します。基本ケースの月間取扱高3億2,500万円は、月間利用者2万5,000人 × 1人あたり月1万3,000円に分解できる計画値です。既存コミュニティからの参加と新規獲得を組み合わせて、この利用規模を目指します。



写真：ゆるバース2026公式開催報告。写真・キャラクターの権利は各権利者に帰属します。

02 / EVERYDAY REWARDS

ゆるぽ。
買い物や体験が、応援に変わる。

ポイ活とは、買い物・サービス利用・アプリの条件達成などに応じてポイントを貯めること。広告主が支払う成果報酬の一部を利用者へ還元する仕組みです。

01 / 案件を選ぶ

還元額・達成条件・期限を確認して、掲載サービスへ進む。

02 / 条件を達成

買い物や申込み、ゲームなど、対象の条件を満たす。

03 / 成果を承認

広告主の承認後に確定。取消し・重複・不正利用は対象外。

04 / ポイント付与

確定した成果報酬から、利用者分のポイントを付与する。

05 / YSPへ交換

交換条件を表示し、確定ポイントをYSP利用へつなぐ。

06 / 応援・利用

投票券や対象サービスに使い、次の参加につなげる。

計算例 / 実際の案件条件ではありません

¥1,000 = ¥700 + ¥300



広告主からの成果報酬 / 利用者へのポイント還元 / 運営側の収入（費用控除前）

ポイント付与額と運営収入は別です。承認待ちの報酬を確定残高に混ぜず、交換や支払いの履歴を残す設計です。

POSITIONING / YSPを選ぶ理由

獲得する入口、使う目的、収益の循環を、一体で設計する。

YSPの差別化は、通貨の発行だけで完結しない事業構造です。ゆるぽ、YuruFun、IP投票、YURUの取引市場をつなぎ、使う人と事業者の双方に継続する接点をつくります。

評価軸	決済用ステーブルの基礎機能	YSPが組み合わせる事業設計
参加の入口	購入・交換・送金	ゆるぽのポイ活とキャラクターのコミュニティ
使い道	法定通貨連動の決済・精算	IP投票、地域決済、YuruFun、YURU取引市場
収益との関係	通貨機能と付加サービスを区分	事業収益を安定化・ステーキング報酬・YURU買い戻しへ配分
成長の順序	利用市場と決済ネットワークの拡張	日本のJPYから海外通貨版、最終的にYSP INDEXへ

USDC・EURCなどにも決済・多通貨の仕組みがあります。YSPの強みは上記の事業を組み合わせる設計にあります。機能の独占性や、他サービスに対する利回りの優位を示す比較ではありません。

03 / A YEN-REFERENCED PAYMENT LAYER

1 YSP = 1円を、支える仕組みから。

1 YSP＝1円の使いやすさを支えるため、発行残高に見合う円建て資産を保全し、償還と市場の流動性を整える設計です。調達資金とゆるぽの継続収益を使った買い支えを、この土台に追加します。

価値を支える資金

発行残高に対応する裏付資産を分別して保全。事業開発費や高利回り運用の資金と混ぜません。

01 円建て資金の受入れ
↓
02 残高に応じた発行
↓
03 残高と裏付資産の照合
↓
04 規約に沿う償還・消却

事業を育てる資金

500万ドルの調達資金は、価格安定用と事業開発用に分ける配分案です。月次収支を確定し、価格安定への補充を報酬より先に行います。

01 事業資金を調達・用途別に管理
↓
02 ゆるぽの開発・運営・利用促進
↓
03 月次収支と使える現金を確認
↓
04 価格安定を優先し、残余を報酬へ

YSPの販売代金を償還用に預かる場合、その同じ資金を開発費や利回りの支払いに重ねて使う設計にはしません。円ペッグは価格安定の目標であり、元本保証とは異なります。

YSP / BUSINESS PLAN

利用前に示す、発行と償還の条件

01 発行者・取扱事業者と必要な登録等

02 裏付資産の保全方法と残高報告

03 償還の方法・手数料・所要日数

04 本人確認・対象地域・利用上限

日本で円連動・額面償還型の決済手段を提供する場合は、発行・取扱いに対応した法的枠組みが必要です。具体的な提供形態は、発行主体と商品条件に沿って整えます。

ゆるぽのポイント

承認された買い物・サービス利用などの成果に応じた還元。

YSP

1円を基準に、貯めた価値を使うための決済構想。

投票券

対象イベントで投票するための利用権。YSPそのものとは別。

STABILITY / 毎月の収益を、価格安定の力に。

1円の使いやすさを、事業の収益で支え続ける。

YSPは、円建ての裏付資産と償還の仕組みを土台に、調達資金の一部とゆるぽ事業から生まれる現金を価格安定に充てる設計です。毎月の売上をそのまま使うのではなく、利用者への還元、精算義務、費用、税、必要な準備資金を差し引き、使える金額を確定してから補充します。

価格安定と償還への備えを優先し、その後に報酬・YURU買い戻し・再投資へ配分します。以下はこの方針を数値化した事業計画です。

01 / BACKING

発行残高を支える円建て資産

1 YSPにつき1円相当以上の適格な裏付資産を保全する設計です。入金と保全を確認してから発行し、償還時は支払いと消却を照合します。この資金を開発費や報酬に転用しません。

02 / STABILITY

買い支えと流動性のための資金

調達資金の一部と毎月の配分可能資金から積み立てます。市場での買付け、流動性供給、償還に備える追加資金に用途を分け、使った分を重ねて計上しません。

03 / OPERATIONS

事業を続けるための資金

ゆるぽの開発・運営、利用者への還元、事業者への精算、税・予備費を先に確保します。売上未入金分や将来の売上予測を、保有している資産として数えません。

YSP / STABILITY FUND

調達資金で備え、毎月の事業収益で補充する。

US$2,000,000

01 調達資金の40%を価格安定用へ

↓

02 月次収支を締め、入金を確認

↓

03 配分可能資金の50%を追加

↓

04 買付け・残高・消却を記録

500万ドルの調達目標に対する価格安定枠は200万ドルという配分案です。円建て支援に使う米ドルは円へ交換し、実際の円受取額で管理します。償還資産へ移した金額は買い支え余力から控除し、二重に使いません。

価格安定と償還への備えを優先し、その後に報酬・YURU買い戻し・再投資へ配分します。以下はこの方針を数値化した事業計画です。

YSP / MONTHLY CASH FLOW

基本ケースの月次収支と配分。

下の報酬試算と連動する月次モデルです。取扱高と売上・収入を区別し、全額入金、運転資金の増減なしを仮定します。

百万円／月

月間取扱高	325
利用者還元等を差し引いた月間収入	6.5
運営費・税・必要準備費用	2.5
月間の配分可能資金	4
価格安定枠への補充	2
報酬原資への配分	1
YURU買い戻し予算	0.25
事業内に残す資金	0.75

月間取扱高3億2,500万円 × 実質収益率2% = 月間収入650万円。費用等250万円を引いた400万円から、200万円を価格安定、100万円を報酬へ配分します。残る100万円の25%をYURU買い戻し、75%を内部留保に充てる配分例です。

YSP / LIQUIDITY PLANNING

買い支え予算と補充ペースを管理する。

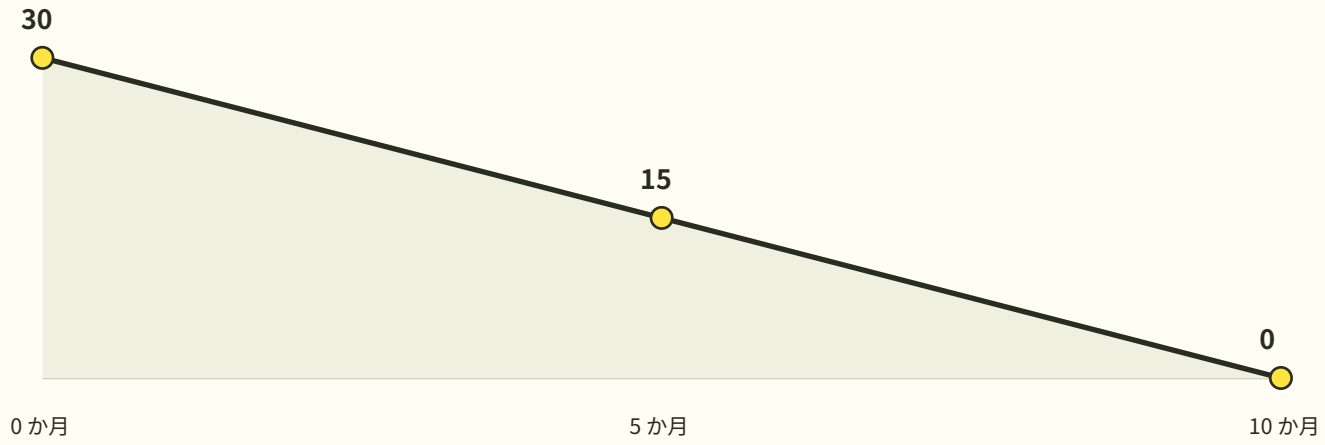
価格安定枠のうち、市場支援に使える現金だけを対象にした簡易ストレス試算です。

30 / (5 - 2) = 10 か月

開始資金3,000万円は独立した試算条件です。基本ケースでは毎月200万円を補充し、月500万円の支出に対して10か月分に相当します。裏付資産の取崩し・追加調達・YSP再売却を収入に含めない計算で、価格維持の保証ではありません。

この予算で支援を継続できる計算上の期間

開始時の買い支え用現金（百万円）	30
毎月の買い支え支出（百万円）	5
事業からの毎月の補充	2



YSP / OPERATING POLICY

価格と資金残高に応じた運営ルール

1円を下回るとき

原因と資金余力を確認し、価格安定枠の予算内で市場買付けと流動性供給を行う方針です。取得したYSPは隔離して管理し、消却が完了した分だけ発行残高を減らします。

1円を上回るとき

適格な裏付資産の受入れを伴う発行・交換経路と、決済に必要な流動性を整えます。裏付けのない追加発行で価格を調整しません。

売上減少・売り集中のとき

報酬配分と裁量的な支出を抑え、償還への備えを優先します。買い支え資金には限りがあり、乖離の拡大や長期化、障害の状況と対応を開示する方針です。

月次で見えるようにする、6つの項目

01 発行残高と消却記録

02 裏付資産額と充足率

03 償還に使える現金と処理状況

04 ゆるぽの入金済み収入と収支

05 価格安定枠への補充と使用額

06 買付数量・単価・残高と検証記録

発行・償還・価格安定枠・実行記録を月次で照合し、資金の流れを開示する運営設計です。価格安定は、裏付資産の保全、償還、流動性の管理を組み合わせて支えます。

04 / SUPPORT THAT YOU CAN USE

貯めた価値を、一票の応援へ。

ゆるぽで得たポイントをYSPへ交換し、対象イベントの投票券を取得する流れを設計します。投票券の単価、票数、利用期限はイベントごとの条件として管理します。

01 ポイントを確定

↓

02 YSPへ交換

↓

03 投票券を取得

↓

04 キャラクターを応援

設計例：1 YSPを1円相当として扱い、100円の投票券なら100 YSPで取得。100 YSPが自動的に100票になるという意味ではありません。

有料投票の採用、対象イベント、無料投票との関係は主催者のルールに従います。本ページは、現在の大会投票方式の変更や採用決定を告知するものではありません。

01 / 毎日の接点

年に一度のイベントに加え、買い物やゲームから継続して参加できる。

02 / 使い道のある還元

貯めたポイントの先に、投票・体験・サービスという利用目的をつくる。

03 / 地域とIPへ広がる

キャラクターや地域の企画を入口に、商品・イベント・IP利用へ展開する。

05 / REVENUE BEFORE REWARDS

年12%を基本ケースに。
事業の収益を、保有者への報酬へ。

YuruFunでYSPをステーキングし、対象残高に応じて事業収益から報酬を配分する設計です。基本ケースは年間報酬原資1,200万円、年間平均対象残高1億円。価格安定への積立を先に確保したうえで、単利・税引前の年12%を計画の基準に据えます。

基本ケースは事業計画上の試算です。報酬は事業収支・対象残高・契約条件に応じて変動し、固定利回りや元本を保証するものではありません。

01 **入金済みの事業収入**

↓

02 **費用・税・準備費用を控除**

↓

03 **価格安定枠を先に補充**

↓

04 **残余から報酬を配分**

↓

05 **対象残高へ還元**

報酬原資は、事業から得た入金済みの収益です。YSPの裏付資産、取引の預り金、調達元本と分けて管理します。

YSP / BUSINESS PLAN

年12%を基本ケースとする収益モデル。

初期表示と「基本ケース」は年12%の計画値です。月間取扱高3億2,500万円、実質収益率2%、年間費用等3,000万円を基準に、価格安定・報酬・YURU買い戻し・内部留保への配分を確認できます。

月間取扱高（百万円） / 325

実質収益率（%） / 2

年間運営費・税・準備費用（百万円） / 30

価格安定後の報酬配分（%） / 50

年間平均対象残高（百万円） / 100

配分可能資金から価格安定へ（%） / 50

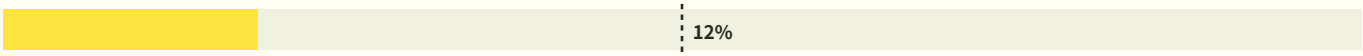
報酬配分後の残余からYURU買い戻しへ（%） / 25

単利・税引前のモデルです。実質収益率は利用者還元等の変動費控除後。全額入金・運転資金の増減なしを仮定します。YURU買い戻しは価格安定と報酬の配分後に計算し、報酬原資を減らしません。

YSP / SCENARIOS

年12%を基本ケースとする収益モデル。

取扱高2億円 / 4.5%



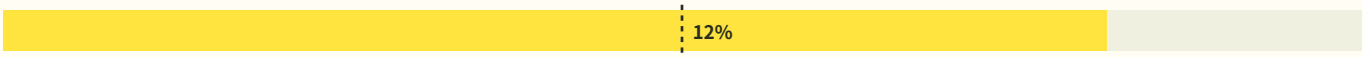
月間取扱高（百万円）: 200

基本ケース・12% / 12%



月間取扱高（百万円）: 325

取扱高4.5億円 / 19.5%



月間取扱高（百万円）: 450

年12%に必要な月間取扱高 : 325 百万円

年率 = max（年間取扱高 × 実質収益率 − 年間費用等, 0）×（1 − 価格安定配分率）× 残余からの報酬配分率 ÷ 平均対象残高

単利・税引前のモデルです。実質収益率は利用者還元等の変動費控除後。全額入金・運転資金の増減なしを仮定します。
YURU買い戻しは価格安定と報酬の配分後に計算し、報酬原資を減らしません。

YSP / BUSINESS PLAN

ステーキングの運営と開示

01 対象残高・計算期間・報酬の算定方法を明示

02 保管方法・資産保全・運営責任を明確化

03 預入期間・出金・解約条件を申込み前に表示

04 報酬配分・資金残高・実行記録を定期報告

YSPの決済・償還機能と、YuruFunのステーキング契約を区分して管理します。提供主体、適用法令、資産保全、利用条件をそろえて提供する計画です。

基本ケースは事業計画上の試算です。報酬は事業収支・対象残高・契約条件に応じて変動し、固定利回りや元本を保証するものではありません。

報酬原資は、事業から得た入金済みの収益です。YSPの裏付資産、取引の預り金、調達元本と分けて管理します。

YURUFUN / YSP STAKING

YuruFunで預ける。
事業の成長を、報酬につなぐ。

YSPのステーキングをYuruFunに組み込む計画です。残高、申込条件、対象期間、報酬記録を同じ画面で確認できる体験を設計し、日常利用と保有の両方を支えます。

YuruFun / YSP JPY

12%

基本ケースの年間報酬率

YSP JPYを保有
獲得・交換したYSP JPYの残高を確認する。

条件を確認して申込む
対象期間、出金条件、報酬計算を確認する。

対象残高に応じて計算
事業収益から確保した報酬原資を配分する。

報酬と記録を確認
付与・受取・利用の履歴をYuruFunで管理する。

基本ケースの受取試算

10,000 → 1,200

平均対象残高10,000 YSP JPYに対する1年間の報酬試算

年12%の単利・税引前モデルで、1年間を通じて同じ対象残高を維持する計算です。報酬は収支と契約条件に連動します。ここでのステーキングは預入れによる報酬プログラムで、ブロックチェーンの検証報酬とは区別します。

https://yuru.fun/

VALUE CIRCULATION / YSPからYURUへ

事業の利益を、YURU COINの買い戻しへ。

YSPの価格安定とステーキング報酬を確保した後、事業利益の一部をYURU COINの市場買付けへ配分する設計です。利用の拡大とYURU経済圏の成長を、収益の流れでつなぎます。

年間YURU買い戻し予算

3 百万円

基本ケースでは年300万円。安定化と報酬の配分後に残る年1,200万円の25%を買い戻しへ、75%を内部留保へ回す配分例です。

01 入金済み収益から費用等を控除

02 YSP安定化・報酬原資を確保

03 残余の一部をYURU買い戻し予算へ

04 買付数量・価格・保有残高を開示

上振れ益は、確定利益として扱う

YSPが基準価値を上回る局面では、裏付けを伴う発行・交換と流動性供給で価格を調整します。この取引で費用控除後の利益が実現した場合、その一部も買い戻し原資に組み入れます。含み益や未回収額は配分しません。

裏付資産と預り資産を保全する

発行残高相当の裏付資産、償還資金、利用者の証拠金は別管理です。市場価格の上昇によって裏付資産を事業利益へ振り替えることはしません。

実行内容を開示する

予算、買付数量、平均取得単価、実行記録、保有残高を報告します。買付けと消却は別の処理として扱い、YURUの価格上昇を保証するものではありません。

TRADING INFRASTRUCTURE / 将来の市場展開

YURUの現物と先物を、YSPでつなぐ。

将来のYURU COIN現物・先物市場では、YSPを価格表示、売買代金の決済、証拠金、損益計算の基盤通貨として位置づけます。まずYSP JPYを軸に設計し、海外通貨版への対応を拡張します。

SPOT / 現物

YURU / YSP JPY

YURUの価格をYSP JPYで表示し、購入代金・売却代金・取引手数料を精算する取引ペアの設計例です。

価格表示の単位 / 売買代金の決済 / 手数料と取引履歴

FUTURES / 先物

YSP建ての証拠金・損益

YURU先物の証拠金、日々の損益、契約終了時の精算にYSPを使う構想です。契約仕様、清算手順、資産保全を一体で整備します。

証拠金の管理 / 損益の計算と決済 / 清算・精算の運用

決済需要と、事業収益の接続

01	→	02	→	03	→	04
YSPを準備		現物・先物の取引に利用		取引の決済・精算		手数料等の事業収入へ

取引市場は将来の事業構想です。顧客の預り資産・証拠金・未精算残高は、報酬やYURU買い戻しの原資に含めません。実現・入金した手数料等から費用・税・必要準備を控除した資金を、事業の配分方針に従って扱います。

YSP / TRADING OPERATIONS

市場を支える運営設計

顧客資産と運営資金の分別

残高照合、入出金承認、保管先の管理を独立した記録で運用します。

価格情報と清算手順

参照価格、証拠金率、清算条件、異常時の取引制御を契約仕様として定義します。

市場運営と情報開示

適用法令、必要な許認可、本人確認、取引監視、手数料・市場運営主体を明確にして展開します。

年12%の基本ケースには、将来の先物市場の収益や価格上振れ益を加算していません。市場事業の損益は独立して管理する設計です。

取引市場は将来の事業構想です。顧客の預り資産・証拠金・未精算残高は、報酬やYURU買い戻しの原資に含めません。実現・入金した手数料等から費用・税・必要準備を控除した資金を、事業の配分方針に従って扱います。

06 / BUILD THE BUSINESS

500万ドルを、
安定と成長の両方へ。

調達目標は500万米ドル。40%を価格安定用、60%をゆるぽ・決済・利用促進等へ充てる配分案です。価格安定用の資金は、月々の事業収益から継続して補充する設計とします。

$5,000,000

資金使途の設計案



01 / 価格安定・市場流動性 / 40% / US$2,000,000

買い支え用現金、流動性供給、償還に備える追加資金を用途別に管理

02 / プロダクト・決済基盤 / 25% / US$1,250,000

ゆるぽ、残高管理、成果承認、精算・照合の開発

03 / 利用促進・会員獲得 / 15% / US$750,000

継続利用を軸にした集客とキャンペーン

04 / 投票・IP・事業者連携 / 10% / US$500,000

投票券、権利条件、主催者・事業者との接続

05 / セキュリティ・法務・運営予備費 / 10% / US$500,000

資産管理、検証、不正対策、提供条件と予備費

40%・25%・15%・10%・10%の配分案で合計100%。実行済み調達の表示ではなく、契約上利用可能な事業資金の使途を示します。発行残高を支える裏付資産は別途保全します。

INVESTOR VIEW / 成長を収支で説明する。

利用者数から、資金の配分までつながる計画。

投資家が確認する軸を、利用規模、1人あたりの収益、資金配分、実行の節目に整理します。以下は日本のYSP JPY事業の基本ケースであり、運用実績や確定予測とは区分した計画値です。

25,000 × ¥13,000 = ¥325,000,000 / 月

利用者1人あたりの月次モデル

月間利用者	**25,000人**
1人あたり月間取扱高	**13,000円**
実質収益率	**2.0%**
変動費控除後の月間収入	**260円 / 人**
固定費等の配賦	**100円 / 人**
配分可能資金	**160円 / 人**

260円は利用者還元等の変動費控除後、固定費等控除前の収入です。基本ケースでは、1人あたり80円を安定化、40円を報酬、10円をYURU買い戻し、30円を内部留保へ配分します。

獲得効率を、継続利用で管理する。

獲得費用を月次で計測し、利用者1人あたりの変動費控除後収入と比較します。例えば獲得費用1,200円・月間収入260円なら、固定費配賦前の回収期間は約4.6か月です。これは計算例であり、実測の獲得単価や継続期間ではありません。

YSP / BASE CASE

基本ケースの年間資金配分

取扱高	**39億円**
変動費控除後の事業収入	**7,800万円**
運営費・税・必要準備費用	**3,000万円**
価格安定枠への積立	**2,400万円**
ステーキング報酬	**1,200万円**
YURU買い戻し予算	**300万円**
内部留保・再投資	**900万円**

資金投入と、実行の節目

発行・保全の整備

発行・運営主体、資産保全、償還条件、会計・照合の責任分担を確定し、取引記録を追跡できる状態にします。

国内で利用を積み上げる

初回利用率、成果承認率、月間利用者、継続率、取扱高と実質収益率で事業を管理します。

収益の配分を検証する

価格安定用資金、対象残高、ステーキング報酬、YURU買い戻し、内部留保を月次で照合します。

市場と海外へ再投資する

国内の事業収支と運用体制を基に、YURU市場・現地通貨版・統合指数へ投資を段階的に進めます。

YSP / INVESTOR INFORMATION

投資家向けに示す運営情報

01 発行・運営・保全・市場運営の担当主体と役割

02 調達の契約条件・実行額・資金使途と進捗

03 月次収支・対象残高・裏付資産・償還の照合

04 報酬と買い戻しの予算・実行記録・残高

事業・資金調達について相談する

contact@yuru.fun

GLOBAL / 各国の暮らしから、世界につながる。

日本のJPYから、海外へ。
最後に、世界のYSPをひとつの指数へ。

展開の起点は日本のYSP JPYです。ゆるぽ・YuruFun・投票・決済の利用と収益循環を国内でつくり、その運営モデルを海外の通貨別YSPへ展開します。各通貨の運用基盤を結び、最終段階でYSP INDEXへ統合する成長戦略です。

展開順序：日本のYSP JPY → 海外のYSP EUR・YSP USD等 → 統合指標YSP INDEX。通貨別の保全・償還・現地運営を積み上げて進める事業計画です。

YSP JPY / 日本市場

1 YSP JPY ↔ 1 JPY

円で獲得し、円で使う。国内のポイ活、投票、加盟店決済をつなぐ入口です。円建て資産で発行残高と償還に備えます。

YSP EUR / ユーロ圏市場

1 YSP EUR ↔ 1 EUR

ユーロ圏のサービス利用と還元をつなぐ構想です。ユーロ建て資産・精算・償還を分けて管理します。

YSP USD / 米ドル建て市場

1 YSP USD ↔ 1 USD

米ドル建ての利用と精算に対応する構想です。米ドル建て資産で発行残高と償還に備えます。

上記の1対1は、各通貨版の設計上の連動目標です。YSP JPY・YSP EUR・YSP USDが同じ価値という意味ではありません。ユーロは複数国で使われ、米ドルの利用市場も一国に限らないため、国数ではなく決済通貨ごとに設計します。

YSP / GLOBAL CURRENCY NETWORK

地域ごとの決済を、共通のインデックスでつなぐ。



円・ユーロ・米ドルのYSPを組み合わせ、バスケット全体の価値を表す共通の指標へ。指数連動通貨として展開する場合は、構成資産を保有・保全し、その純資産価値に連動する発行・償還を設計します。

各通貨の安定と、指数の価値を分ける

各通貨版は対応する法定通貨への連動を目指します。YSP INDEXは通貨の組合せへの連動を目指すため、円・米ドルなど一つの通貨から見た価値は為替で上下します。

重みと計算方法を公開する

構成通貨、組入数量、基準日、為替データ、手数料、構成変更・再調整のルールを公開する設計です。利用実績と市場の流動性を踏まえて構成を設計し、売上やユーザー数をそのまま裏付資産には数えません。

資産と償還を二重に数えない

各通貨の裏付資産と、指数連動通貨が保有する構成資産を照合します。同じ資産を自由に使える別口の準備金として重ねて計上せず、交換時は換算レート・費用・受取額を表示します。

YSP INDEX / CURRENCY EXPLORER

為替が動くと、統合指数はどう変わる？

基準日を100、円換算の初期配分を各3分の1とした説明用モデルです。基準日に決めた通貨数量を固定し、以後の為替変化を反映します。実際の為替相場や採用済みの指数構成ではありません。

JPY	EUR	USD
100	95	110

統合指数 ＝（100 ＋ ユーロの指数 ＋ 米ドルの指数）÷ 3

101.67

例：ユーロが95、米ドルが110なら、統合指数は101.67。円換算で基準日から約1.67%上昇します。

為替変動で構成比率も変わります。再調整・費用・利息・税は計算に含めません。これは価格指数の例であり、年12%の報酬試算や元本保証とは別のものです。

YSP / LOCAL REVENUE AND STABILITY

事業収益の循環も、通貨ごとに。

海外の取扱高が増えれば、その市場の事業収入と利用機会を広げられます。安定化に使うのは、実際に入金され、各市場の支払い義務を満たした後に残る資金です。

01 現地の買い物・サービス利用から成果報酬を得る

↓

02 利用者還元・加盟店精算・費用・税を差し引く

↓

03 現地通貨の価格安定枠と必要な流動性を補充する

↓

04 残余を再投資・報酬・海外事業の拡大へ配分する

通貨ごとに裏付資産と事業資金を管理します。海外の配分率は各市場の収支に合わせて設計し、日本の年12%の基本ケースとは分けて評価します。

YSP / INTERNATIONAL EXPANSION

日本の利用基盤から、多通貨のネットワークへ。

01 / 日本で利用と収益の循環をつくる

ゆるぽ、投票、決済をつなぎ、円建ての発行・償還・収支・価格安定の運用を構築します。

02 / 各市場に合わせて展開する

現地の事業者・加盟店と連携し、言語、本人確認、発行・保全・決済体制、各法域の必要な許認可や規制要件を整えて、その通貨版を提供します。

03 / 統合指数と交換の仕組みをつくる

構成資産の保全、指数計算、価格情報、交換・償還のルールを整え、YSP INDEXへつなぎます。各通貨版の運用と資産照合を前提に進める構想です。

単一通貨の1対1連動と、多通貨インデックスの価値分散は異なる役割です。YSP INDEXは、どの通貨から見ても値動きがない通貨を意味しません。

展開順序：日本のYSP JPY → 海外のYSP EUR・YSP USD等 → 統合指標YSP INDEX。通貨別の保全・償還・現地運営を積み上げて進める事業計画です。

YSP / BUSINESS PLAN

実行の順序と、次へ進む基準。

日本での利用・収益・資産照合を出発点に、取引市場と海外へ展開します。各段階の成果を数値と運用記録で判断します。

01 / 日本のJPY基盤

ゆるぽの成果承認、円建て資産保全、YuruFunの残高管理・ステーキング、投票・精算を接続します。

02 / 国内の継続利用

月間利用者、1人あたり取扱高、実質収益率、継続率を追い、月次収支と配分を開示します。

03 / 取引市場と海外展開

YURU現物・先物の決済設計と、各国の通貨版を展開します。現地の発行・保全・市場運営・許認可を満たす体制を整えます。

04 / YSP INDEX

通貨別の運用、構成資産の照合、指数計算、交換・償還を接続し、多通貨を束ねる段階へ進みます。

成長を測る、6つの指標

01 重複を除いた登録者数

02 月間の実利用者数

03 成果の承認率

04 一人あたりの取扱高

05 費用控除後の事業収支

06 報酬原資と対象残高

YSP / FAQ

YSPについて、知っておきたいこと。

COINCOMEの20万人が、そのままYSP利用者になりますか？

20万人はプロジェクト提供のユーザー規模情報です。連携条件、利用者の同意、登録率、継続率、重複を分けて考えます。自動移行や顧客情報の共有完了を意味しません。

110万人超は、現在のYSP利用者数ですか？

旧グランプリの投票ID登録者数です。過去の登録規模を示しており、現在の月間利用者数やYSP利用者数とは異なります。YSPへの参加には、別途登録や同意などの手続きが必要です。

YSP JPYは、どのように1円への連動を支えますか？

発行残高に見合う円建て裏付資産の保全と償還を土台に、調達資金と事業収益による価格安定枠を組み合わせます。市場価格や償還には運営・流動性上のリスクがあり、元本保証とは異なります。

YSP / FAQ

YSPについて、知っておきたいこと。

年12%の基本ケースは、何を前提としていますか？

月間取扱高3億2,500万円、実質収益率2%、年間費用等3,000万円を前提に、年間2,400万円を価格安定へ、1,200万円を報酬へ配分します。平均対象残高1億円に対して単利・税引前で年12%です。事業計画上の試算で、実際の報酬は収支と対象残高に応じて変わります。

調達資金とゆるぽの売上で、どのように買い支えますか？

調達目標500万ドルの40%を価格安定用に充て、月々の費用等を差し引いた資金の50%で補充する計画です。基本ケースでは毎月200万円を積み立てます。報酬、YURU買い戻し、内部留保は、その後の別枠で配分します。

ポイント、YSP、投票券は同じものですか？

ポイントは成果に対する還元、YSPは円連動の決済構想、投票券は対象イベントで使う利用権です。交換率と利用条件をそれぞれ表示する設計です。

YSP / SOURCES

数値と説明の根拠

計画値・設計例は本文中で明示しています。下記はサービスの一般説明と公式イベント実績・制度情報の参照先です。

COINCOME：ポイ活サービスの説明

https://cimcome.jp/

ゆるバース2026：公式開催実績

https://www.yurugp.jp/navi_news/116

金融庁：電子決済手段の発行者の整理

https://www.fsa.go.jp/singi/kessaiseido_wg/siryou/20241121/1.pdf

BIS：ステーブルコインの裏付資産・償還・流動性

https://www.bis.org/publications/aer-2026/anchoring-trust-money

YSP / SOURCES

数値と説明の根拠

計画値・設計例は本文中で明示しています。下記はサービスの一般説明と公式イベント実績・制度情報の参照先です。

IMF：通貨バスケットの評価方法（一般的な仕組みの参考。YSPとの提携・承認を示すものではありません）

https://www.imf.org/external/np/fin/data/rms_sdrv.aspx

NRI：ポイント・マイレージ市場（2026年4月）

https://www.nri.com/jp/news/newsrelease/20260421_1.html

経済産業省：2025年キャッシュレス決済比率

https://www.meti.go.jp/press/2025/03/20260331006/20260331006.html

矢野経済研究所：アフィリエイト市場（2026年3月）

https://www.yano.co.jp/press-release/show/press_id/4056

YSP / SOURCES

数値と説明の根拠

計画値・設計例は本文中で明示しています。下記はサービスの一般説明と公式イベント実績・制度情報の参照先です。

Circle：USDCの公式説明

https://www.circle.com/usdc

Circle：USDC規約と報酬の位置づけ

https://www.circle.com/legal/usdc-terms

YuruFun：公式サービス

https://yuru.fun/

写真：ゆるバース2026公式開催報告。写真・キャラクターの権利は各権利者に帰属します。

contact@yuru.fun